編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121　ホームページ http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/

2016年 春号 Vol.22

ほっとタイムズ

病院長メッセージ「未来の医療を創る臨床試験への参加のお願い」

ドクター紹介
泌尿器科 島居 徹
泌尿器科 山内 敦

各科各部紹介
第8回 臨床工学技術科

トピックス
永井名誉院長 寄稿文（記念植樹について）
診療報酬が改定されました

4月から看護局へ新しいスタッフ30名が仲間入りしました

病気を知ろうQ&A

自分や家族のもしもの時に ～知っておきたい「認知症」のこと～

病院長メッセージ

ー第5回ー

「未来の医療を創る 臨床試験への参加のお願い」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター
病院長 **吉川裕之**

「臨床試験」という言葉をご存知でしょうか。臨床試験とは、薬剤や医療器具等の安全性、有効性などを確認するために、治療を兼ねて行われるテストのことを指します。臨床試験は、製薬企業などが厚生労働省の承認のもと新薬・新医療器具の治療データの収集を行ういわゆる治験と、研究者・医師が主体になって新薬や治療法などの効果についてのテストを行う研究者（医師）主導試験の大きく2種類に分けられます。

これらの試験を進める上では、患者さまのご協力が必要で、患者さまの登録なしでは成立しません。かつての日本では、臨床試験全体の件数が極端に少なく、実際の医療現場でのエビデンス（＊1）を日本から発信することは多くありませんでした。最近では、臨床試験はもちろん、日本から世界へ向けたエビデンスの発信が活発に行われるようになってきました。

臨床試験は、患者さまにとっても大きな魅力があります。それは、がん治療に使用される分子標的薬などの臨床試験に参加することで、最新の医薬品による治療が受けられることです。国内での医薬品の認可は受入れていないため、一定のリスクはありますが、これまでにない有効性を期待できるというメリットもあります。こうした新薬は臨床試験（治験）に参加しなければ、自費でも使用が難しい薬剤も少なくありません。たとえば、日本から研究が始まった「抗PD-1抗体」という薬剤は、従来の薬剤とは全く異なる特殊な免疫療法で、悪性黒色腫、非小細胞肺がんではすでに保険が適用されています。また、他のがん種でも治験が進んでいます。当院でも一部のがん種では、類似薬も含めて治験（臨床試験）への患者登録が可能です。

当院より新薬の治験や研究者主導の臨床試験についてご案内することもあるかもしれませんが、質の高い医療を患者さまへ提供するため、医師からの説明をよく聞いて、参加をご考慮いただけると幸いです。

＊1　新しい治療法や新薬が良い結果をもたらすという科学的根拠

NEWS!

熊本へ向けて 医療救護チームが出動！

熊本地震による被災者を支援するため、4月21日（木）熊本県へ医療救護チームが派遣されました。チームは当院の医師、看護師、薬剤師を含む計6人で編成され、被災者の治療や健康相談などに当たりました。

病気を知ろう Q&A

自分や家族のもしもの時に ～知っておきたい「認知症」のこと～

Q：「認知症」とはどのような病気（症状）ですか。

認知症とは、脳の細胞の働きが悪くなりさまざまな障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態を指します。もの忘れが代表的な症状ですが、最近注目されているレビー小体型認知症の場合、「はっきりしている時とボーっとしている時がある」（認知機能の変動）、「実際にはそこにない物が見えたり、いない人が見える」（幻視）、「体を動かしにくい、手足がふるえる、歩きづらい」（パーキンソニズム）、「睡眠時の大きな声の寝言や異常な行動」（レム期睡眠行動異常症）といった症状もあります。

Q：「認知症」などの病気か、年齢によるものか判断に迷っています。病院へ受診の目安はありますか。

ある出来事の中の一部（食事の内容など）を忘れてしまうのが正常な物忘れで、出来事の全て（食事をしたことなど）を忘れてしまうのが、「認知症」です。また、約束を忘れたり、道に迷ったり、日課をこなさない、だらしなくなる等の症状があらわれた場合も認知症を疑うことになります。

Q：中央病院のもの忘れ外来では、どのような診療をおこなっていますか。

当院でのもの忘れ外来の流れは、看護師による問診→医師による問診・神経診察→CT→長谷川式簡易知能評価スケール、血液検査（「物忘れセット」）→MRI→必要に応じて脳SPECT→診断→治療（投薬）→経過観察、介護保険主治医意見書作成などとなっています。

Q：家族が「認知症」と診断されました。家族が注意すべきこと、してあげられることはどんなことでしょうか。

脳梗塞で歩けない人に「なんで歩けないの。」とは言わないのに、認知症の人には「なんで何度も同じことを聞くの。なんで同じことを言うの。」と対応してしまいがちです。叱ったり、間違いを正したりすると、本人が屈辱感を持ったり、家族に対する敵意を抱くことにもなりかねません。ありのままの姿を受け止めてあげることが大切です。手に負えないときは専門の外来や医師へ相談してください。

Q：認知症（もの忘れ）を予防するために、日頃からどんなことに気をつけたら良いですか。

残念ながら、認知症を確実に予防する方法はまだありません。ある研究では、社会的つながりによる他者との交流が脳の機能低下を食い止めるという結果が出ています。また、脳卒中と認知症のリスクには共通するものが多いと言われていますので生活習慣病のコントロールも大切です。

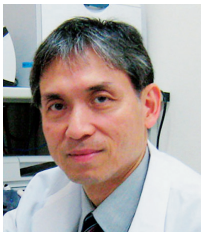
脳神経外科部長
鯨岡　裕司 先生
が答えました

プロフィール

専門は脳神経外科ですが、2年前に「もの忘れ外来」をスタートしました。

根本治療法が開発されるまでの間、患者さんの認知症の進行をできるだけ遅らせることができればと考えています。

ドクター紹介



臨床教育センター長
泌尿器科
島居　　徹

泌尿器科の島居（しまずい）と申します。生まれは横浜ですが、筑波大学入学以来茨城に移り住み、ちょうど40年がたちました。筑波大学の寄付講座である茨城県地域臨床教育センターの所属として当院に赴任して現在5年目をむかえております。

専門は泌尿器がんの診断、治療で、手術では腹腔鏡手術を手がけてまいりました。当院でも現在低侵襲手術として定着しておりますが、最近ではロボット支援手術を担当しており、前立腺がん手術に加えこのたび腎がん手術も保険適用となりましたので、ご質問などありましたら気軽にご相談ください。

泌尿器科　部長
山内　　敦

泌尿器科の山内　敦と申します。当院には2001年4月1日に赴任しました。途中2年間非常勤だったこともありますが、15年間勤務させていただいております。

2015年には前立腺癌が日本人男性における最多罹患数の癌になりました。茨城県においても増え続けている癌であります。当科でも2013年からロボット支援前立腺全摘術を開始しましたが、今年通算100症例を超えました。この春からは腎臓癌に対するロボット支援手術も健康保険対象手術となりました。皆様に安心して手術を受けていただけるよう日々精進してまいります。

各科各部紹介　第8回　臨床工学技術科

「医療機器を通して患者さまの治療をサポートします」

臨床工学技士は国家資格になって30年程度の新しい職種です。臨床工学技術科スタッフは、平成28年4月には新たに1名採用され、総勢15名になりました。緊急時も含めて様々な診療科の業務を行っています。

私たちは医療機器の操作を通じて医師の診療・治療の補助や看護師への機器操作説明など、医療スタッフが安心して患者さまの治療を行えるようサポートしていきます。

<おもな業務内容>

- 血液透析業務（深夜透析含む）：8名
- 心臓カテーテル業務／アブレーション業務：2名
- 人工心肺業務／ラジオ波焼灼：2名
- 医療機器管理業務／ダヴィンチ業務（ロボット支援手術）／末梢血幹細胞採取／自己血回収：2名

槐（エンジュ）の植樹

名誉院長　**永 井 秀 雄**

槐（エンジュ）はマメ科の落葉広葉樹です。木偏に鬼と書くことから魔除けの木とされます。読みが「延寿」に通じるため、長寿を願う木ともされています。別名コヤスノキとも言われ、安産の守りにもなります。

茨城県立中央病院は県民の健康のために日夜努力しています。また、私の退職の年に10年ぶりの産科再開となりました。そこで退職記念樹は槐としました。

槐は鬼門（東北）と裏鬼門（西南）にあるのがよく、病院駐車場の東北（調整池手前の東端）と西南（県道手前の西端）に1本ずつ植えていただきました。

造園関係者の勧めで園芸種の枝垂れ槐（シダレエンジュ）を選びました。中国名「龍爪槐」にふさわしい枝ぶりです。夏には白い花を咲かせます。槐の花は槐花（かいか）、実は槐角（かいかく）として漢方薬に使われるとのこと。

子供も大人も、患者さんも職員も、「みな健やかであれ！」と願って植樹しました。

写真：鬼門（左）と裏鬼門（右）の槐

診療報酬が改定されました

●診療費の支払金額が変わる場合があります。

「診療報酬」とは、その名の通り診療に対する報酬のことです。全ての医療行為や薬剤には予めその内容に対して価格（報酬）が決められており、診療報酬は、通常２年に一度、厚生労働省により改定（見直し）されています。

平成28年度の診療報酬改定により、4月1日診療分から採血検査や放射線検査など一部診療費が変更されました。平成28年３月分までと同じ診療内容でも、窓口でお支払いいただく金額が変わる場合があります。支払額や診療費等の内容について質問やご相談等ありましたら、お気軽に医事課までお問合せください。

●中央病院はより一層の地域医療連携を推進します！

今回の診療報酬改定のポイントに『地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化・連携の一層の推進』が掲げられています。これまでも当院では、急性期病院として手術などの高度・専門的治療を行い、リハビリや経過観察は地域の医療機関、かかりつけの診療所にお願いする地域医療連携を進めてきました。今回の診療報酬改定により、今後は、さらに急性期病院としての機能を充実するため、当院での手術などの高度・専門的な治療が終わった段階で速やかに回復期病院への転院、または退院・在宅医療へ移行をお願いすることになりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ　医事課：0296-77-1121㈹　平日 午前８:30～午後５:30

面会ルールが変更になりました！

当院では、入院患者さまが治療に専念できる環境づくりのため、病棟における面会時のルールを設けております。より一層安心・安全な医療環境を提供するため、一部ルールを変更しました。

○面会時間が変更になりました

月～金曜日：13:00～20:00
土日、祝祭日：10:00～20:00

○面会証をご着用ください

当院では、すべての面会者の方に、面会証を首にかけて見える位置に着用していただくこととしております。

ご家族には、黄色の「家族面会証」を入院受付時にお渡しします。

また、その他の方には、緑色の「面会証」を総合案内・夜間入口(警備室)の各窓口でお渡ししています。

なお、面会証を着用していない方の病棟への立ち入りは、固くお断りいたします。

ご家族や面会される皆様には、面会ルールについて、ご理解とご協力をお願いいたします。

嚥下（えんげ）外来が開設されました

嚥下外来では、耳鼻咽喉科医師や摂食・嚥下障害看護認定看護師、歯科衛生士、栄養士などが協力し、診療を行います。のみこみの状況を内視鏡検査や造影検査などで評価し、食べやすい方法や食事形態の検討、自宅でスムーズにできる嚥下のご提案を行います。

対象は、うまく飲み込めないなどの嚥下障害がある、または疑われる患者さまです。具体的な症状としては、以前より食事に時間がかかり、体重が減っている、むせやすいなどがあります。嚥下外来を受診したい、食事に不安があるなどご相談は、耳鼻咽喉科外来までお問い合わせください。

看護師募集
看護補助者募集
（ヘルパー2級保有者）

現在、嘱託職員を募集しています。

夜勤も含め、勤務部署・勤務日等は相談に応じます。
お気軽に看護局までお問い合わせください。

あなたの「働きたい」をサポートします！

＊質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
＊教育、研修、安全管理体制をしっかり整え、スタッフ全員で仕事と家庭の両立を支援します。

茨城県病院局　☎029-301-6516
中央病院看護局　☎0296-77-1121（代表）
担当：海藤

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528　☎0296-77-1121　ホームページ http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/